

『富山親額フォーラム』

平成 15 年 12 月 6 日 13:30~17:30

富山電気ビル

ワークショップ

『子供に自信を持たせる教育』 16:00~17:30

百瀬昭次

(百瀬) もう一度申し上げますけれども、素晴らしいみなさん、今日はお忙しい中ありがとうございました。今日お会いしたお会いした方は本当にご縁のあった方ばかりで。縁とか、さっきもうしあげましたけれども、出会いというのはいかに大事かということが...大事とかいう程度のもではなくて、出会いが人生そのものだということか。出会いの大切さというのは、チャンスの運び手なんですね。チャンスをどんどん運んでくる。どういうチャンスかという個人的出会いと社会的出会いとよくありますけれど、両方とも自分が抱えている問題をいかに打開するか。あるいはどう進展させるかですね、そういうヒントとかメッセージが出会いには必ずあるんですね、特に顕著な出会いが。ですからこれを知らないとチャンスをどんどん逃がしますので、夢も実現できないし素晴らしい人生も歩めないというんで、私は小学生から会ったときには、そういうことを言っています。

小さいうちにですね、本当に大事な人間学の基本...あとでお話ししますけれど。そういった、生き方の土台作りをすることを学ぶチャンスのある子供というのは、将来が約束されると、私は言っていますね。つまり出会いというのは、その人に見合った出会いが起こるんですよ。ですから小さいうちに素晴らしい出会いに早く出会うということは、早くそういうことを使って、社会の為に役立てるという役割が最初からあるというふうに言ってあげて。ですから迷わず自信を持って進みなさいというふうに言って、たくさん巣立っていきまされたけども、子供達はおかげさまで素晴らしい人生を歩んでますし、素晴らしいことをたくさんします。

そうしたことをやっているうちに、さっきお話ししましたように学校ぐるみでそういう現象が起こってきたんです。1つの学校でそういうことが起こるということは、どの学校にも全部そういう可能性があるし同じようにやればいいんで。手本がまず、手本作りっていうのは絶対必要なんです。家庭によって、お父さん・お母さんがどんな手本作りをしていくかによって、それに従って子供がちゃんと背中を見て育ってきますけど、その為にそういう基本的なものをしなくてはいけない。それを総称して私は、人間としての生き方という意味で「人間学の基本」と。あえて基本とつけたのは、難しく考えないで欲しいという。そういう意味で、そういう言い方をしているんです。

それでさっきの出会いの話じゃないですけども、まず今、どういう時代かと最初ちょっと

いいましたけども。大変革期というのは自己変革を図らないと時代から置いて行かれる。あるいは、図ると一気にいくという二極分化が起こる、変革期というのはそういうことです。わかる人には最高の時代。企業でもですね不況、不況という絶好調の企業がいっぱいある。それは日頃から人材育成...ちゃんと力を入れて人材を育成し、どんなピンチが来てもピンチはチャンスに切り替える。チャンスもピンチに生まれ変わるというようなね。そういったことを含めて、前へ前へと進んでいくそういうプラス志向型、未来志向型のそういう生き方、習慣作りを普段からちゃんと心がけている。そういうふさわしい言葉を、どんどん使っている。できないと言わないでできる、だめじゃなくてすばらしいとかね。そういった、言葉で言うとそういうようなプラス志向型に、今一気に転換しなくては行けない時代。転換すると一気に解消する。そういうすばらしい時代が来ているということを、まず知っておいていただきたい。それが今の変革期との出会いですね。

お子さんとの出会いというのもね、わたしさっき「黄金期」と言いましたけれどもね、お母さんのお腹にいるときから、非常に大事な時期に決まっていますね。その時にそういう人間として生まれてくるということのすばらしさ、それにはどんなことが必要かということ伝えてやるということね。心で伝える言葉で伝えるということをやっていくと、必ず成長過程でそれを吸収されていきます。一番やさしいですよ、胎児期というのは。

という時期ですからね、胎児期というのは。ほんのわずかしかなかったね。その時期に大事なことを好んで伝えてやるということが、一番早く、一番確実な...大事なことほど早い時期にそういうのを伝えられるような、人間の成長過程がそうなっている。それは3歳くらいまでは本とか...本というのはそういう生き方の形にして、著しているという先輩達のすばらしいものがありますからね、そういうのを読み聞かしてやる。21世紀は本を読むか読まないかで差がはっきり出る時代ですから。みなさんは多分本をたくさんお読みになると思うんですけど。本が好きでお読みになる方？ちょっと手を挙げてみてください。本はあまり読まないという方。本にもいろいろありますけども、そういう意味で人生...人間性作りですね。本当に役に立つことを残してくれている大先輩がいますので、そういうものを是非活かして。本っていうのは、ついでに申し上げますと、私も本を書く立場ですからあまり言えないですけど、読む立場でもありますからね。そういう立場からいって本というのはねソクラテスの言葉ではないけれど、本というのは苦心惨憺して、すばらしい先輩達がやって見せてくれている、そういうすばらしい宝物みたいなものなんですね。なんの苦労もなくスイスイと、学べるものになっているのが本なんですね。本は人なり。ですからみなさん、本っていうのは自分で買ってただ読んでと思ったら大間違いで、本もこの世に生まれてきているという誕生がありましてね。そしてみなさんが出会っている本というのは、よくよく縁があって出会っているということで、本のほうもみなさんに出会うために生まれて出会っているということです。こちらから選ぶというより、本のほうがみなさんを選んできてるわけですよ。そうですね。仕事なんかもそうなんですよ、天職と言われるんですけど。自分で選んでいるようだけれども、さっき言った子育ての預かりものじゃ

ないけども、仕事も天からの預かりもの。あなたはこの仕事を任せる、絶対ちゃんとやるに違いないからということ を 信頼されて任されているんですよ。ですから粗末にしたら偉いことになる。縁があって授かった仕事である、とにかくそれをとことんやってみるといふ。そういうことをやると次のチャンスが、必ず出てくるんです。そのようにこの、出会いというのは必ず前へ前進していくような、出会いが必ずある。

で「黄金期」にはそういった出会いの大切からはじまって、生き方の処方箋というかそういうものを授けて柱作りをするっていうのが、今私がキャンペーンをやっているのは、中学生くらいの段階で、そういう人間学の基本を共通の常識化する。共通の常識化すること。共通性と個別性というのがペアなんです。二局一対ということでペアです、常に。自然のあり方で、2つのものが1つになっています。どっちが欠けても意味が無くなってしまふ。親と子。子がいなくて親ばかりでは親子の意味がないですね。両方の相乗効果を生み出すというのが自然のあり方なんです。バランスが崩れると がおきるっていうようなことになって、ちゃんと自然はですね心してみていくと、ちゃんと答えを運んできてくれる。やってることに対してこれはいいよ、これはこうした方がいいよということ を ちゃんと教えてくれるようになっていきますから、最初から言ったように出会いから大切だと知らない、それは気がつきませんけど。ですからチャンスをつかむ秘訣はね、出会い意識を高めるといふこと。出会いとはいかに大事かということ を、しっかりと常識化・潜在化させるといふことと、もう1つは「主役意識」みなさん自身が主役であり、今日のディスカッションにしても、私たちはあくまでも応援する立場で、みなさん自身が主役であると。何かこういった場に出ていく場合みなさんね、自分が主役であるということ を いつも頭に置いていくと、そして出会い意識...出会いが大事であるとわかっていると、チャンス を ばんばんつかむんですよ。ただ漠然と行っても...行かないよりはいいですけど、半分は抜けていってしまうとか。それはみなさんの人生に非常に大事な出会いがたくさんあります。特に大事な出会いというのは、一瞬のひらめきというか一瞬の の出会いとか。そういうことがねものすごく大事なんです。私たくさん経験していますから、わかるんですけど。ですから出会いがすごく大事だということ 主役意識であるということ。ブラウン管の前に座って、いろいろな番組を見たりなんかしていますとね、傍観者だったら絶対だめなんですよ。いじめの問題...うちは子供が大きいから関係ない。そうじゃない。自分にとっていじめとはどういうことなのかという。そういう主役意識・当事者意識とかいいですけど、そういう意識で見ると「ああそうか」ということがひらめくんです。漠然と見ていると、ただ時間が流れていってしまうだけで。あまり対して役に立たない情報が、ばんばん来てしまつて、疲れてしまふとかね。そういうふうになりかねません。

そんなことで出会いは大事ですということを知っていただいて。黄金期をいかに生かすか、そのためには、さっき言いましたけれどもお子さんが過小評価するといいますが、自分はずばらしいとか...そういう考えを持ってくるのは、ほとんどいないんですよ、残念ながら。みなさんのお子さん、どうですか？みなさんのお家では、どんな風にプラス志向型という

か存在意識というかね。そういったものをきちっと確立できるような体制をとっていらっしゃるかどうか。とっていらっしゃる方。ああ、いらっしゃるんですね。あとでまた詳しく。出会ったんですからね、みなさんお互いにチャンスですから、お互いいいところを生かしあうというか、ディスカッションじゃなくて意見交換でいいですからね。　　でいいですけども、そういったことで気楽にひとつやってください。

大事なことはさっき言いました、私『君たちは偉大だ』という本を書いたのね。君たちは偉大だというのは、そのものズバリなんです。子供達へのメッセージなんです。人間は偉大な能力を持って、偉大な存在であるというのはあたりまえなんです。それが、当たり前が当たり前になっていないから、ほとんどの子供がだめだとかね、大したことないとかそういうふうになっている。それは育てている、みなさんどうかわかりませんが大人達が、普段日頃「あなたは、すばらしい」なんて言ってない。言っている家もあるんです。昭和恐慌を立て直した、高橋是清さん。大蔵大臣で後に総理大臣になった、ご存じですね高橋是清さん。あの方がですね、幼少期に養子に出されて。そして養父母に育てられた、おばあさんに、養子先のね。おばあさんは二言しか言わなかった。「あなたは運がよく、幸せ者」とこれだけです。「あなたは運がいい」と「幸せ者」この2つ。年がら年中これを言っていたんです。わかりますか、言葉の力。大事なことは継続するという事は、それくらい大きな力を。彼はアメリカへ留学というか渡ったときに、奴隷にされちゃったんですね、間違えて。奴隷にしてはあまりにも賢いから、あなたはこんなところにいるところじゃないからって、また国に帰ってきて。あれしてもらって、いろいろまた仕事をしたり、失敗をしたりして。でもいつもその言葉。運がいい幸せ者なんだからこのまま終わるはずがないということが、無意識にのうちにそういう考えがでてきて、行動になって現れてくる。ということで、実際にこの国がどうなるかという時に役に立った。これ実際にあったことですからね。これは最高の教材なんです。これは特別な人がやったと思ったら、大間違いですよ。代表でやったということ。ですから、偉人の伝記なんてみなさん読ませます？偉人の伝記、なんのためにあるんでしょうね。やっぱり偉人の伝記は、伝記なりの固有の価値がある。生かすべき中身がある。それを生かすだけでいいんですよ。それがものを大事にするということなんです。これはみんな同じです。子供の持ち味をいかに引き出すかという。他の人は関係ありませんよ。その偉人の伝記はどういう　　があるのかという。それを引き出して実際に使う。その時に大事なことはね、言葉...自信を付ける1つの方法なんですけど、偉人の伝記を読むということですけどね、自分が偉人になった、その人になったつもりで読まないでだめですよ。偉大なことをした人を偉人と呼ぶからだめなんです。偉大なことをした人ってというのは、特別な能力があった人って見ちゃうでしょう。あがめ奉っておわりですよ。だから、偉大な...すばらしいなあ、僕は無理だ。偉大な、僕は無理だ...どンドン溝ができちゃって逆効果になります。そうじゃなくて、人間がいかに偉大であるかを代表で示した人を偉人と言うんです。ですから様々でしょう、偉人って。学校へ行かない人もいればバカ扱いされたり。あるいはヘレン・ケラーさんのよ

うな三重苦の人もいれば、様々でしょう。それは誰でも、みんなだってやればかなりのことができることを、実証で示してくれている人です。ですから成功体験といいますが、そういうことを実際に学べる、すぐに学べるのは伝記なんです。本は人なり、そして出会った本というのは、自分にとってすごい貴重な本である。自分に会ってくれる本であるというかね。そういう意味で、ものを大切にするっていうのは、ありがたいなあ、この本があってって感謝の心です。感謝の心ってものすごい大事です。感謝の心ってものを大切にすることの基本です。あるいは、そのものの価値を知って生かす。そしてそれがきっかけで、味方になる。なんでも味方にしたらいいんですよ。どうしたらいいか、その間を生かすっていうんですよ。まず我が子であろうがものであれ、どんどん受け入れる。受け入れるという姿勢、相手を立てるといって姿勢。親が変わると子が変わるといいましたけど、まずそのために、親が変われば子が変わるといって、主体性をもって率先してやっていくとどんどん変わります。自分のほうから相手を生かすようにやっていけば。善循環が悪循環かどっちかですからね。「これは、おれが」っていくと大きくなりますけど。「まず、あなた」ってこうやると善循環になる。どっちかですから。善循環は続けていくと、どんどん善循環の輪が広がっていく。いい出会いがどんどん起こってきます。私なんか本当にあれ、ありがたいと思っています。本当にすばらしい方と、高橋先生お話しさせていただいたりするなんてことも、ちゃんとやっていくと必然的に出会いは起こってくる。出会いを生かしてまた、新しい出会いがあるという。それを歴史的にやって示したのは、坂本龍馬なんです。坂本龍馬ってご存じですか？ちょっと聞いてみようかな。坂本龍馬ご存じの方。ちょっと挙げてみてくださいよ。龍馬は歴史的に、どんな偉業を達成したか知っている人。あ。これね、超エリートクラスの人にね頼まれてやったことがあるんです。去年かな、超一流企業ですよ、管理職ですよ、だから超一流のエリートと言っていいでしょう。そこで、君たちは偉大だっというタイトルで話して欲しいと言うんです。私の本の社長さんが愛読者で。お呼びがかかって話したんですけど。その時に龍馬の話が出たときに、聞いたんですよ、今言ったように。「龍馬知ってますか〜」って。変な顔して手を挙げましたよ。当たり前じゃないかという顔をして。じゃあ歴史的に、どんな偉業を達成したかっていうのは、4~5百人いたんですが、半分くらいになりました。じゃあ彼は、我々の手本になることを、ちゃんと残しているんだけどそれを知っている人っていったら、10数人になっちゃって。それをやっている人っていったら、1人になっちゃった。おわかりですか、何を言わんとしているか。坂本龍馬をほとんど知らないということです。あれだけのことをやって、歴史にやって見せて、これですよ、転換期の生き方はこうですよという手本を、ちゃんと残しているのに。ほとんど知らない。いいこと起こるわけないでしょう。先輩を粗末にしているということですからね。ものを粗末にしていることになるわけですから。坂本龍馬を1人生かしただけでも、時代が大きく変わってしまうようなことを、彼はやってるんですよ。

さらに 21 世紀は、日本の世紀だからこうやりなさいって言うてるんじゃないですか。世界

の海援隊をやりたいって。あの時代本人はできませんよ。日本の選択をするだけで精一杯。日本の選択をするって、実際に新しい近代国家を作り上げる基盤を築きました。で、新しい時代は、21世紀はこうなります。世界の海援隊ですよ、日本が出番ですよということを言葉で残しているんです。ってわたくしは見ています。ですから、彼は出会いを作る名人であり、生かす名人なんです。だから幕末維新の歴史っていうのは、龍馬の出会いの歴史って言うてもいいくらい。ほんとに彼は、出会いを見事に生かしているんですよ。ふたとおりの出会いがありますから、みなさん。向こうからやってくる出会い。例えば黒船に出会ったとかね、龍馬。それからニュートンが万有引力発見したなんか。木からリンゴが落ちるなんてしょっちゅうあるでしょう。たまたま一瞬の出会いをつかんだってことが万有引力を発見した。発見しなかったらどうなるんでしょうね。我々はこんな事をしてないでしょう。歴史は変わってたでしょう。龍馬が黒船に出会ったときに行かなかったら歴史は変わってなかった。そうじゃないですか。彼は更におもしろいことに、薩長連合ってご存じ。薩摩と長州という両方の...これは犬猿の仲ですよ。水と油、全く対極的な敵対関係ですよ。これを融合させて新しいものを生み出して、時代を動かしたんです。これは日本人には「間の発想・構造」という特殊な精神構造があるからです。これは日本人にしかないんです。時代の変換期っていうのは時代の1つの間ですから。まさに間に象徴される時代なんです、今。そうするとやっぱり、間に象徴される日本が動かなくてはどうにもならない。だから日本に対して、日本たたきだろがばんばん来ますよ。それは悪意があるからでもなんでもなくて、時代が演出をしているんですから、形から中身を掴んでパッと転換しないと。それを大人はもちろんだけど、子供の段階でも、黄金期の段階でもそういうことをちゃんと分かってやらなきゃいけない。逆に言うとそれだけの素質を持ったのが日本人なんです。大事な指名を担っている。大正時代にアインシュタインが日本へ来たときに、はっきりと言ってるんですよ。日本が国があることによって、将来何があっても必ず救われるよっていうことをね。我々にメッセージを残してるんですよ。新聞にもちゃんと載っています。

そういう情報をですね、みなさんどんな風に勉強しているか。非常に勉強が必要な時代です。勉強といってしまうと堅苦しいですけども、すてきな欲求を満たすことが起こりやすい時代。家庭でも、家の家庭はどうしようかなんてことをね、全員で勉強しようっていうようなそういう。家庭がちゃんとしたら社会はちゃんとなるでしょう。そのために家庭というものがあるわけですからね。一番小さな社会集団。家庭は何でもできる、すぐにできる。すぐに決断してすぐ行動できる。ですから変革期は勇気を出して決断...勇断と漸次即行というのキーワードなんです。最後の言葉ちょっと時間が できません。勇断して漸次即行。これを片岡中学校で新井国彦っていう国語の先生が、実際やったから動いたんです。中学の先生が「これは必要だ」と動いたら時代は追い風ですから、どんどん行くんですよ。そういう具体的な表れなんです。ですから、私あえてみなさんにお伝えしたかったんです。資料かなんかありますか？ありますね。一番最後のほうに教育新聞が2つ

あるけど、そのうちの1つの新聞にたまたま連載を、私企画してせっかくみなさんやっていましたから、他の学校の先生方が実際片岡方式をやったら、こうなりましたということ、まだ他にもありますけどもたまたま、これくらいしか間に合わなかったの。後でまた、お帰りになってから見ていただければよろしいんですけど。やった先生が一番勉強になったと言うんですよ。それはそうですよ、たくさんの生徒がばんばん学ぶんですから。そして生後は、ちゃんと見るところは見ている。先生がいいと思ってやったことは、ちゃんと心得ていて自分から進んで、『君たちは偉大だ』という本の中には、有名な人の言葉はさっき言った坂本龍馬とか「人間は考える葦である」とか、そういうことばがかなり出てくるんです。それを自分たちで書いて廊下に貼ったりね、トイレに貼ったり玄関に貼ったり、そうしてそういうことが話題になっている学校があると。みんなで憶えてきた。だから子供達というのは、やれてやらなくても自分たちに本当に為になることであれば、黙っててもどんどんやるんです。そういう黄金期は特に、自分の人生を変えて行く、そういうことに真剣に考えなければいけない時代ですから、それに関わることならば、どん欲に吸収してそれをどんどん、自分でやってみるということが別に不思議でもなんでもない。本を読まない子が読むようになったなんて、ちゃんと感想に書いてある。感想文集ちゃんとありますから、ご希望の方はまたお送りしてもいいんですけど。彼らの言葉っていうのは宝物。本当に今の子供っていうのは、そういうことに非常に敏感で、そして素直に感謝します。私にエールを送って「先生、元気でいつまでも、また本を書いてください」なんてね。これまた私はパワーをいただいて。を書くようなことをやらざるを得なくなるんですけど。そういう意味で、そういう手本が学校は学校内にあるんです。家庭でも「君たちは偉大だ」でなくてもいいんだけど、ああいうものを、他にないものですから私書いたんですけど1980年に、『君たちは偉大だ』『君たちは受験生』あの本を読むという形でやっているのはその 中学校なんかでやったり。小学校の学級破壊のクラスなんかで、どうにもならなかったことが、みんなで読もうといった瞬間に学級破壊が解消しちゃったんですよ。で、その学校へ課外授業で私1回行って来ました。生徒が来てくれっていうから。これはどんなことかなっていったら、学級破壊なんて様子全然ない。大歓迎していただいて。手作りのおみやげをこんなに頂いてきたんですけど。1章をみんなで読んで感想がどんどん来るんですよ。2章を読みたいと書いてあるんです。2章を読んだら3章を読みたい。3章を読んだら4章読みたいって書いてあるんです。本当に。そうしてもう終わっちゃった。だからわけないんです、150ページくらい。みんながその気になったら。ということで、いかに子供達というのは人生の目的とは、自分の存在価値、どう生きたらいいのか。そうして人間は前向きにどんどん生きる。プラス志向型に生きるのが自然にあるんだと。それは自然の創造の流れというか進化の流れって、この中にずっとあるよね。その方向に沿っていけば、どんどんいい方向に行くんです。ただ、ワンパターンでは行きませんからね。必ず螺旋を描きながら行きますから。途中から一気に飛躍すると、こういう事の連続ですから。ですから3日坊主が一番だめです。そういうカーブがありま

すでしょう。2枚目にありますね。これをちょっと説明しましょうか。左側の目標達成の  
パターン、かならずやったら、一番確実簡単で大きな成果を得られる事を言います。みな  
さん、毎朝顔を洗う人。なぜ洗うんですか、顔。顔をなぜ洗うんでしょうかという、素朴  
な疑問を抱いたんですけど。それはね、目がぱっとするし何かついたら困るし。そういっ  
た意味わかりますね。よく考えると全員が一斉にやるんですよ、これ。朝必ず。人生のス  
タート。朝って人生のスタートです、そのスタートの段階で必ず洗うということです。全  
員が一斉に毎日やる。これはただごとではないでしょう。一気に全員で気がつくチャンス  
があるということです。水との出会いがあるということなんです。蛇口でいいます、例え  
ば。水がでてくるでしょう。だからつい 。あれ出なかったらどうなるんです  
か。イギリスのことわざに「井戸が涸れるまで水のありがたみがわからない」ということ  
わざがあるらしいんですけど、だって水がなかったら5日と持ちませんよ。マラソンにな  
ったら脱水症状を起こしますからね、しょっちゅう水分補給するでしょう。空気は

けどね。空気はわかりにくいですね、水はわかりやすい。ちゃんと出会っているとわ  
かる。で本当に水があってよかったなあということ素直にしっかりと味わうこと、そう  
いうのが人間の一番の基本なんですよ。その感謝の心を培う。水があってよかったなあ。  
人間ほとんど水ですからね。水に対してどう生かすか、どう接するかによって、水って  
いうのは人間を生かしながら、人間の生き方を全部教えてくれる存在なんです。

最初にもう、出会いの大切さということを教えたじゃないですか。しかも稽古代になっ  
てくれて。感謝の心が無いことにはね、絶対幸せに人生歩めません。これはものを大切にする  
心ですから。味方がないことには何も自分でできません。人も物も感謝の心を持って接  
する人には全部集まります。それは当然です。毎日感謝の心が大事だ、ものを大事にする  
心、そしてすばらしいたくさんの方の味方を作る。ものの価値というものをよく味わうとい  
う心。そういうことをやっていくと、教科書なんか接するときにも単なる印刷物ではなく  
て、自分の為に役に立ってくれるそういう力を持っているんだから、親しく仲良くしよ  
うじゃないかってことで、ありがたく使わせていただくと向こうが力を付けてくれるん  
ですよ。味方になってくれる、これを間を生かすということ。間を生かして我がショウ

。日本人の得意中の得意ですよ。薩長連合なんてあんな事をやったんですから、坂本龍  
馬。水と油もね融合する、間を生かす事をできるだけの芸当を、ちゃんとできるのが日本  
人の精神構造ですから。これは世界に内ですから、大いに誇りを持っていいですよ。あま  
り天狗になってはいけませんけども、自信を持っていいですね。そういうものがこれから  
絶対に必要になってくる。それが無いのがヨーロッパなんです。近代文明を築いたね。そ  
れはそのほうが進展が早いんですよ。もの場合には早いんですよ。現象学的に

それが、いつまでも後遺症でもっていっこうに解消しませんね。戦争が。それはDNAが  
違うんです。今日の話じゃないけど。間の発想をもったDNAを持った日本民族が動かな  
いことには。だから龍馬はあの時代にちゃんと、さっきの薩長同盟...基本を残してるんで

すよ。

水というのはね、まさにその間を。酸とアルカリというのは対局でしょう。酸とアルカリ。1つにして塩という中性のものを生み出すでしょう。塩酸と苛性ソーダを結びつけると水と食塩ができるとかね。そういう仲介役、あらゆるものを分解したり仲介したりする事をみなさん頭の中で一生懸命やっているんですよ。実は。だから我々は生きていますよ。水というのはね、人間の生き方の知恵を全部凝縮して持ってるもんなんです。坂本龍馬は水の発想を全部使ってるんですよ。ですから間の発想・水の発想を使ってるから、手本を使ってるからあの時代にあれだけの時間の間、あんなことができちゃったんです。

こういういいことは、お手本ですからどんどんまねをしなくては。

ですから、自分が新しいことをやり出すんじゃなくてお手本があるんですよ。それを素直に受け入れてどんどん使っていく。漸次即行していくという。そういう生き方の基本体制ですね。それを家庭では、お父さん・お母さんが率先してやっていくということでしょうね。

みなさんご自身に夢がありますよね。自分の将来。子育てってというのはね子供にとっては基礎作りだけ親にとっては自分の半生をどう生きるかってことを再認識する、両方の目的がかなっている時期なんですよ。子供と何か一緒にできるなんていうのは限られるでしょう時期が。その時に相乗効果を生むように接しないと。それはあなたと私みたいな対ですね。それは相手を受け入れるという。相手を励ますとかね、相手がうれしいな。

よく3匹の鯛が泳いでるでるなんて...聞いたことありますか？3匹の鯛が泳いでるときが一番イキキとしているってこと。1つはほめられたい、何かやったらほめてやる。正當に評価してやる。2番目は認められたい。3番目が何かをしてあげたい。

1番目役割を、さっきお手伝いというあれありましたけど。そのお手伝いを任せられるということは、信頼されるということですから子供が自分は役割があると、自分がちゃんと存在している価値がある存在であるということ。日頃親に認められるということはね、天にも昇る思いなんですよ、子供にとっては。その次は先生なんです。両方が認めないとどうなります。そりゃあすったもんだやりますよ。子供は結局一番問題は、今行った自尊心の確立、自分の存在価値というのが足が地に着いていない状態。そういうものを求めて自動的に行くんですよ。家でだめだったらどっかへいく。結局悪い仲間に入ってしまうとかね。認められるということに本能的な

みたいなものですから、後ろへ行ってしまって、それでも認められたい。それでもだめだったら事件でも起こすわいと、とんでもないこと。だからねいかに、支柱作りをするかということね。これが一番教育に大事なんだけど一番欠けていたんですよ。ですからそれが抜けてる以上は、いくら人数を変えるとかシステムを変えるとかしたって、絶対にうまくいかないんでね。両方必要ですから。真ん中をちゃんとすると後、周りが生きてくる。ボランティアであろうがなんであろうが。なんであろうが子供がだまって、一生懸命やる。そういうことで、今日みなさんに出会ったのはね、ほとんど日本中の人はそういうことを知らないですよ。少しの人の

か。そういう大事なことをみなさん出会ったということは、それに見合うだけのみなさんに、実力があるということです。そういう出会いを満たすだけのね、みなさんに人間的力があるという証拠なんです。その出会ったで終わりじゃなくて、それを額面通り素直に生かして行くことができると、後は大きな進展が必ず見られます。

まずお伝えしますけどね、今日本でなぜ、富山で『親学』か。そういうとらえ方。「親学」やるってだけで、富山は意味があるんです。それは今行ったことを含めて新しい子育て、社会も含めて家庭のあり方、親のあり方というものを 21 世紀型に継承し直していく、切り替えていく。だめなものをいいものに切り替えていく。朝ただ水で顔を洗っておわりじゃなくて、今行ったように「水さん、いつもありがとう。今日もよろしく」これで朝の挨拶。水というのは不思議な物質で、精神的な情報を吸収するっていう。水は感知力が天下一品高い物質なんです。宇宙から宇宙線がいっぱい降り注いでいるでしょう。これは

である水が受けて反応しているんですね。水というのは自分から情報を吸収して、自分からどんどんそれを生かしていく、みなさんの中で。水はなんにもいわなくてもどんどん活躍しているでしょう。ですからそういうことをちょっと考えるとね、いや凄いなって事わかるんですけど。

ついでに言うておきますけどね、努力をするという習慣作りは絶対必要ですね。

何か夢を持たないと、目標を。どんなことでもいいから夢を持つ。人間は目標を持たないと満足な生き方はできません。そしてそれに向かって必要の組み立て。こうやってこうやるという。途中修正してもいいけど、それに向かってやっていく。さっき言ったように、曲がるべき時には曲がるべきチャンスが来る、出会いが。それを素直に受け入れて、パッと切り替えていく。そのくりかえしですよ。で、あきらめてしまうというのが失敗なんです。何事も失敗とは何かというにあきらめてしまうことが失敗なんです。このカーブね、必ず弾みがつくようになっているんですよ。勉強できないでね、すぐできるようになるわけじゃないですよ。英語ができないって言うのは、朝今言った水で挨拶して、1つのあれが終わったらね、15分くらい英語のリーダー声に出して音読。これはさっき今日、前頭葉って出てますけど、活性化に非常にいいんです。単純計算練習とかね。漢字の先生なんかデータからでてますけどね。漢字書取りとか簡単にできることですよ。音読するのがいい。そうすると、脳全体が活性化する。前頭葉がね、それを 15分くらい。このわずかな、簡単なことをどこまで続けるか。誰でもできることを誰でもできないことをやるということです。そうするとやった人が一番のすばらしいことである。みなさんどうぞ、お茶でも飲みながら。

それでもう一つ大事な、いい例がありますが。今年ノーベル賞のダブル受賞というのがありました。憶えています？みなさんの家で話題になりました？どんな話題になりました？我々日本中の全部の家庭が、大沸騰するくらいの中身が入っていたんです。21世紀は日本の世紀であるということ、あれはちゃんと象徴している現象なんです。私なりに解釈するとね。その田中耕一さんがね、こういう事を言っているんです。なぜあれが発見できた

かと、小さいときにおばあさんにもったいない、紙一枚粗末にする、もったいない。同じ事をずっと言われた。そして実験で失敗した。普通失敗しても、ありますね。もったいないって、もとにありますから、これは何かに使ってみよう。それが無いものは、パッと捨ててしまう。チャンスを逃してしまう。そういうことですチャンスを生かすと言うことは。紙一重のところですね天と地くらい違う。これは実際具体的な事実ですから。こういう事を教えずに何を教えるか。これは、田中耕一さんはたまたま化学の仕事をしていて。研究しようとして分析機を開発する仕事をしていたから、そういうことになったんだけど。なにやったってそういう場面が出てくるんですよ。私なんかもしばしばありますよ。一瞬行き詰まった時に、何かの拍子に無意識に本を取りだしてパッと見たら、開いたところにヒントがちゃんとあったりする。嘘みみたいな本当の話。だから前へ前へ出ないから、目標をもってやっていく姿勢さえ崩さなければ、素直に進んでいけば必ずゴールにたどり着くようになっているんです。だって人間って言うのは、創造性があるというのは夢が実現できるように、目標が達成できるようになってるんですから、元々が。それが常識化されていないから機能しないんです。いかに肝心なことを知らないか。能力あるかないかじゃなくて、知るか知らないかによって差が出てしまうんですね。知っただけではだめですよ。知ると言うことはね、思行合一といいましてね。知ることと行うことは1つである、知ったことを実際に使ってみて初めて知ったって。知ると言うのはそういうこと。頭でわかって知ったではありません。わかってるって言うてればそれまでですよ。使ってみて、行動的でないと何もわからないということです。知ると言う知識そのものから来るっていうんですね。ですから知ると言うことは、必ず使ってみて初めて。そしてさっき言った、水に感謝するということと、15分くらい英語でも国語でもなんでもいい、読む。このわずかなことがね、継続するとどうなるかっていうことをね、僕は実際味わって欲しいんですよ。お母さん・お父さんは別のことでいいですよ。何か小さいことでいいですよ、それを小善を継続すると大善に繋がるという。その弾みがついていってしまうという。だから誰でもできることなんですよ。わけわからないことではなくて。わかってそれを素直に率直にやるか、即行するかもたもたしてるか。今の時代というのは追い風で、非常にいいことをより早く結果を出してくれる最高の時代なんです。だから漸次即行は絶対に必要なんです。習慣作り、ものの考え方ね。

みなさん、お子さんはどう思っておられるでしょうかね。お子さんはどういうイメージなのか。今日もう一度イメージと検証し直して、これはいいイメージだと思ったら継続すればいいし、ちょっとこれはまずかったなと思えば、切り替えていただきたい。そして黄金期の子供は特に、否定されると絶対に認めないんです。大反発しますよ。そりゃそうですよ、自立するときですから。自分の存在価値を認められるって事は絶対に不可欠な時代ですから。そういう年代ですから。さっきの3匹の鯛っていいましたが、そういうことで。自分の存在を認めてもらう。否定されたらだめです、一番嫌いなんですよ。それから、訳のわからないことをやかましく言われる。みなさんそんなこと無いと思いますけどね。言



(百瀬) ああ、じゃあやってみて結果出ましたか。

(参加者A) 自分で、なんで勉強しなくちゃいけないのかっていうことの目標を早く持つように、うちの主人なんですけども。なんで勉強しなくちゃならないのか、それなりの学校なりそれなりの勉強をしないとこの仕事はできないとか、色々目標がある中で、それを早くに自分で見つけなさいって、小学校の高学年から漠然とどこの学校、今は学校も何も自分で作って、格段に学校の勉強もがんばるんだってって。そしたら入った部活動も、ものすごくいい部活動で、がんばる先輩もいればそうでない先輩もいて、常にそういういい目標を目標にしてがんばりなさいっていうようにもっていくようにしたら、格段に変わりました。本当に黄金期です。反抗期は家にはないです。

(百瀬) そういっておられますが、みなさんのおうちはどうでしょうか。

(参加者B) 自分でなんでって。自分から行く気持ちがないとがんばれないですよ。

(百瀬) そうだね、自分の存在価値というのはピタゴラスという人に有名な言葉がある。中学生の時にピタゴラスの定理というのを習うんですが。みなさんご存じですか。そのピタゴラスが、こう言ったんですよ。「万事の先んじて、汝自身を尊敬せよ」つまり何よりも大切なのは自分を尊敬せよということなんです。口癖にしたと。尊敬に値する存在だから、尊敬に答えられるようなことをしなさいと。人間に生まれてくるとはそういうことだと。ピタゴラスが弟子にいつも言って。こういうことは、しめたと思ってどんどん生かせばいいんです。それが賢い親のすることです。どうでもいいことは、こちらにおいておいて。お父さん・お母さんがご自分で、イメージというのがありましたけどね。夢のない人生なんてつまんない。だって、夢を実現できるようになっている唯一の生き物です。それが人間の生き方の基本ですから。自分がこうしたいって言うことを自分から決めて実現していくという姿勢ですね。創造の流れに沿った生き方。そのためにはプラス思考でないとだめなんです。そこに考え方を切り替えるメーターってありますよね。左と右がちょうど対象になってますよね。右側が自分をすばらしくする考え、左側がだめにする考え。案外こうやって表してみるとね。以外にはっきりする、子供達はね。どっちが多いかというとなりが多いいんです。左が多いタイプをF型といいます。フェーラー。右側がS型サクセスとすることで、失敗成功ということわかりやすいから、頭文字をとってF型S型と言ってるんですけど。大体S型は10~20%。多く見ても。それが今逆転する時期にきているんですよ。子供は全員プラス志向型でね。一気に転換していくチャンスが今、絶好のチャンスが来ているんです。それを生かさないと大ピンチが来ますから。今日このままだったら、偉いことになると言っていましたけどね、高橋先生か誰か。ちゃんと行くとは思いますが。基本的には左側の、だめの・できない・難しいって言うようなこととか、

それをできる・すばらしい・やさしいというふうに、イメージが随分違いますよね。マイナス思考をプラス思考に切り替えていくことを頭に置いて、左側が赤くなって、右側が青く塗って、針がいつも右側に行っていればいいと。神経質になることはないけど、しまったマイナス思考を切り替えようと、あたまのなかにメーターを置いておいてパッと切り替えることやっていくと、自動的に針が動く。何事も続けていくとものにちゃんとなるんです。それをみんな知らないから3日坊主でね、するんですけど。何かみなさん、せっかくの場ですから、感想なりご意見なり建設的な実例がありましたら。

ついでに、家庭ゼミナール、さっきお話ししましたけど。家庭ゼミナール、定期的に、週に一回でいいですから。幼稚園の生徒年長組かなんか、その位のお子さんお持ちの方いらっしゃいますか。あるいは小学校低学年でもいいです。おひとりだけですか。参考までにこういう事をやったお母さんから電話をもらいました。「君たちは偉大だ」というのは、ルビがふってあります。だからひらがなが読める人は全部つかえるということです。それでやった方がいるんです。毎日1ページという事でねワンセンテンス親が読んで、次に子供に読ませて下手でも何でもよくできましたって言ってやるんです。下手でも何か言っちゃだめですよ。「なんでもっと上手に読まないのよ」言うと子供はやめちゃいますからね。心を閉じてしまう。そうじゃなくて、逆によく読めました。これでいいんです。次よまないより読んだ方がいいよと、実績を評価してやる。それをずっとやる、1日に20~30回ほめられる、認められる。そしたら俄然自信がついちゃって、子供って言うのはやり方によって随分違いますよね。あまりにもビックリしたと言うことで電話を頂いたんです。幼児期でそれをできるんですよ。そういうことね。ですからトータルに学ぶと言うことが大事なんです。何か1つずつポイントを、いじめならいじめの問題だって言うんじゃなくて総合的にもものを見ていくと。気を見たたら森を見ろというでしょう。今森を見て確かなものを確保するっていうことが21世紀に向けての子供達に一番大事なことなんです。

(参加者B) いじめって、親子の関係を緊密にする、いいきっかけになります。子供がものすごく落ち込んで帰ってきたときに、親が子供の言葉よりも雰囲気とか、いろんなもので察知するように。初めてそういう教育に気がついたのが、いじめがあったとき。その時に全く持って、上から押しつけるような、怒鳴り続けてそだてているような親だったんですけど、それじゃいけないって。いくら人から言われてもわからなかったんですけども、その時に、ものすごく本を読みあさったんです。教育関係とか子供の小さななんかを。そういう本を読みながらだんだん、踏み込んでいって子供との接し方を少しずつ変えたことによって、親が変われば子供が変わるがそのまま、まともに。子供にいじめ返してこいとかは、絶対言わなかったんですけど、そのままの子供をまず、抱え込んで認めてあげないと、子供はスタートできないから本当に大変だったら、お母さんはどこへでも掛け合いに行くから、警察にも行くしどこにも行くし。本当に大変だったら学校へ行かなくてもいいっていうくらいに言ったら、少しずつだけ行って学校の先生もうまく対応

してくださって、いじめも少しずつなくなって。でも中学になってからも、やっぱりあったんですけど。まずは今自分が大変な状態なんだと行っている子供を、そうなんだ、そんな大変だったんだ、でもクラスの中に1人でも味方になってくれる子がいなかった？って聞いたら少数でも、言わない子とかいじめない子がいるから、だったらよかった友達になれるじゃない。その子と友達になれるじゃない。その子といっしょにいられるじゃない、いじめる子とは関わりにならないでとか、対処法はそれなりに知恵を絞って考えて、そのことが親子が緊密になれたきっかけだったんです。

ですからかえって、マイナスからスタートした方が、大きなものをもらえた。そこからさっきの、努力しようとか目標を持って歩いていこうというのも、全部いじめにあった時からがプラスに変わっていかれたきっかけにだったです。

(百瀬) つまりいじめという出会いを生かしたということですね。

(参加者B) そうですね。

(百瀬) 出会いを生かした。ですから早めに、問題にぶつかったほうがある意味幸せなの。ほっといたらだめですよ。転換をする契機なんですよ。この一見困ったっていう時がチャンスなんですよ。禍を転じて福と成すということも一緒に教えちゃうんですよ。自分で何か困ったことが起こったときは、大事なことを見落としているとかね。試験で100点満点で30点取ったって普通はがっかりするでしょう。でもこれは試験としては大成功ですよ。わからないところがはっきりわかったんだから。プラス思考でしょう。できたところを、まず素直に認めてこれは復習になる。できないところには理由があるから、わからないところをわかるようにする。ただ見直すだけではだめで、一気に得意にしてしまうんです。これはS型人間のやること。できなかつたら、それを見直すだけでは苦手意識は消えません。もう一歩進んでこういう問題だったら、絶対いただきだよと持って行ってしまおう。これがプラス思考なんです。ですから、苦手は得意、得意はますます得意というこういう発想ですよ。これは子供達によく合い言葉で言うんだけど「今日から苦手よ、さようなら。苦手は得意、得意はますます得意」これは合い言葉なんです。これで文句ないでしょう。ね。苦手意識があると永久に苦手になりますから。意識というのは力ですから。能力がないのではなくて、苦手意識が能力にふたをしているわけですから。ですから21世紀というのは意識が非常に大事な時代。主役意識とか目的意識とか、出会い意識とか母親意識とか。それは力になる原動力ですから、意識をうまく生かして。意識を確認して意識をうまく生かして。今のようにお話、みなさんどうでしょう。みなさんに話してあげてください。

家庭ゼミナールをやった、張本人の方がたまたまいらっしゃってます。稲葉さんという小矢部市の。稲葉さんはね、この間小矢部で大イベントをやったんです。平成教育一揆とい

う。それを企画する中心メンバーで、全国からいろいろ集めて、鍵山先生と私も一緒にパネリストでおじゃましたんですけど。大盛況だったんです。そういったことを若いお父さん達が中心になって常時、掃除なんかもちろんやってますよ。そういうことで、家庭ゼミナールを、小矢部で最初に行ったお父さんですから、少し何か一言でも。お話ししていただくとうれしいんですけど。

(稲葉) 聞き取れません いろいろと思うんですけど、色々問題行動があったものでゼミナールを通して子供も今では大きくなって、私を

聞き取れません

でも基本的にその後の彼らの人生的なものを考えると、私自身が見習うことがあったものだから、いまだに

聞き取れません

それで、本当に行動するとき、ゼミナールをやってみて思ったんですけど、あれはみんなができるかどうか、わからない。先生が学校でやって見せたら、もしかしたらできるかもしれない。お家はお家でやればいいし、それぞれが何かをしなくてはならないと思うんですけど、それぞれの人が、掃除は掃除これはこれといいながら

多少新聞とかで、紹介されたこともあるんですが、子供達に伝えたいことというテーマで全国から募集したんです。この項目は、全国から来たやつはここにはって富山県のほうは、こちらのほうに入賞した人と。これは百瀬先生とか鍵山先生の言葉であったり、富山県に多少ゆかりのあった、出身の落語家の方とか

何を教えていいかわからないと、子供達に伝えたいことをみんなから集めたんですけど、結局は、裏を返せば大人の勉強のつもりではらせたんです。でもこれだけあってもわけがわからないでしょう。見て、へえ～で終わってしまう。わたし達の次の活動が、これのある種の集約作業になっているんですが、集約していて本当に

実は400名くらいの方が、これにコメントを寄せたり。中身を言うと10項目くらいとにかく、5項目でもいいから書いてください。それぞれにコメントが原稿用紙一枚あれば結構です。書かない人もおりましたが、実際にかいてこられた方で、ジュシヨウサレタ方がしたの5名。後ろの方も全部ではないけれど、7割方書いてきてこられて。本当はにもそれぞれのがあるんです。本当はもっとあるんです。ただこれをやってみて気づいたは、今の百瀬先生のお話にもそうですし、先程の先生方の話もそうなんですが、おもしろいです。これはキカイでやっている

聞き取れません

自分が並べ替えてみたんですキカイで。催しのあとで、アンケートをもらったんですけど、それをまとめたんですけど。実際には先生のアンケート、一般の方のアンケート

もコメント、一般の方のコメントそれぞれにわけて、アンケートもまとめて、面白い

が、よく似ているんです。

4～5百人くらいに人が参加して、項目はアンケートの人も含めて1,700くらいあった。止まらなかったんです、同じ言葉が並ぶこの力。千何百あるけど、新聞に載ったらほとんど

ど今の話です。先生が言われたのと一緒です。F型人間的な事もありますし、継続は力でありました、  
てきなものもあるしということで。ほとんど子供に言いたいことは一緒にもかかわらず、大人は結構バラバラなんです。すればどうかということで、一  
気にできないかなということで、改めて認識しているんですけど。一緒に行動できる何か  
というのを、先生の本だけでやるのもいいんですが、本当に今年中にまとめは出ますが、  
を める方法がないものかと。質問をしているのですが。

(百瀬) 一緒に考えましょう。せっかくデータがでてくるんですから。

(稲葉) ここはまだ、途中の段階なので。実際にうちのメンバーの中で10項目ずつで、  
もう一回やってみると言ったら、200程出てそれもほとんど、週4日ですね。週3でのデー  
タというのはいないです。ほぼ一緒の世界で  
命を大切に。命を大切にしてください。少しずつ言葉が違う。命の尊さと書いてある  
ものもあるし。でもその命だけの勉強をしたか。

(参加者D) 小学校から今やってきた たみたいな事を、家庭に帰って  
きて自主的な。

(稲葉) 残念ながら親から来たんです。 だと。

(参加者D) 今は学校で校長先生が、命の大切さを教えるというのを、学校の  
の項目の1つに入れておられます。

(稲葉) 実際にわたし達の時にはなかったから、今の弊害があるのかが ある。  
だから、今15の子供が、自分を輪切りにして60まで生きるんだったら、もう4分の1終  
わったと。必ず死ぬんだと。ある意味では本当に命の長さとかそういうものを、本当に教  
えているのか。今ここへ来て、私も勉強させてもらっている本で、子供達に伝えたいこと  
と云ったら、親へというのはなん10項目ある。先生が言われた「親学」という言葉も、ご  
めんなさい初めて知ったんです。本当に親学の必要性というか、これ自身も親学が隠れて  
いるんですね。親が学ぶために子供達に伝えたいことを集めてみた。考えてみたらほとん  
ど集約されつつあるもので、これはほんとうに心強く、ありがたいなと。いい話を聞かせ  
てもらって。力を得ました。

(百瀬) どうもありがとうございました。みなさん、何か質問でも何でもいいですけ  
ども、向かい合ってください、お互いに話を考えて、気楽に。あるいは、こういう場合は  
どうしたらいいのかとか。

たまたま私、実際に見本として実際に使っているのを、持ってきました。『君たちは偉大だ』っていう本。それからこれ、10刷りくらいの本ですけど。両方を公立の学校で10校くらいですかね。これはテキストふうになった『君たちの人生』っていうの。これはこの浦山学園の専門学校ですね。ビジネス専門学校で、後期から今使って。生徒が200何十人全員で使って。この結果を楽しみにしているんですけど。こういう事をやろうという学校、さすが浦山学園だと思いましたけど。専門学校では2校目なんですね。東京でもニッセイ学園ではもう2年目ですかね。使って非常にいい結果を出していただいて。それからこれは『夢のある本物の人生を生きよう』という一番新しいので。これはもう使い始めてる学校があって。簡単に読むだけでいいんですよ。ただ先生が読んでやるだけで、持たせて。そうすると今度は自分で読むようになるんですよ。自分で読みますと書いてあるんですよ。リョウのほうでね。初めてこういう事を知ったってというのがほとんどですから、いかに子供達というのは、私の書いたこの程度のもでも知るかによって、これはトータルにものを考えられますから。1つの森のような形でもって。木ばかりいくら与えられても、混乱するだけなんですね。そういった部分と全体がちゃんと1つになった体系づけられたものを彼らは求めています。人間に生まれることがいかに素晴らしい・恵まれているかっていうことがあたりまえにならないと。当たり前になってないから混乱が起こるんでね。それは間違いです。間違ったことをすると必ず困ることが起こるようになってる。これ自然の法則として。それに早く気がつかせるために。まさに自業自得ではないけれども、原因づけからそういう関係の、これは基本の基本ですよ。お子さん達何か悪いことをする。悪いことをしてよいことは絶対に起きませんから。どんどん悪いことが未来に待ってますから。それは自然の大原則ですから。ですから自分の未来がどうなるかは、今が未来を作っているんです。今は本番、受験生なんかにはね、唯一の本番は今だって教えるんです。普通は受験の当日だと思うでしょう。そうすると試験当日になると、さあ今日は入試の日だって、ときどき顔つきだって変わっちゃうんですよ。考えてることは必ず形になって現れますからね。普段は本番だってことで普段ちゃんとやれば、絶対合格は自動的に、くっついてくるといような発想でやっていますから。みんなやることはやりがいを感じて、ピシッとやっています。それで着実にやっていって、それが当たり前のようにちゃんといくと。それから、受験というのはそういう自己実現の基本トレーニングからなにか、全部将来の為に役に立つことを、学べるチャンスなんです。ですから努力ななんて言うのを、受験勉強を通じて努力の習慣作りをします。ということでこれを、努力を忘れたときに教えてくれる、素晴らしいものがみなさんの体の中にちゃんとあるんです。体の中に動いているのが唯一わかるのは、なんですか。ドキドキ動いている心臓でしょう。心臓というのはね、お母さんのお腹にいるときからずっと動きっぱなしです、今でも。事実そうでしょう。よくあれだけ、懸命に確実に、一生懸命一定のペースで動いてくれてると、それは水を送り出しているんですよ。血液を送り出しているんだけど。これは努力をしようとしてやっているとわけてないですよ。一生懸命自分の使命を全うすれば、ちゃんと立派な生き方

をしてくれる。それを楽しみながら、一生懸命心臓は、この瞬間に動いているのではないかと。これを努力を忘れて努力をするというんですよ。努力を越える努力、それが本当の努力なんです。だから何か悩み事が起こったときには、心臓に手を当てて心臓さんに申し訳ないかと反省すればいいんですよ。そういうことを教えてくれる最高の先生がいるんですよ。体を通じて、それこそ宇宙 。人間ってというのは、自分から進んでどんどんやらなくては生きられない生き物です。そうでしょう？自分からものを食べ、水も飲み。頼まれてやっているわけではないですよ。水はまさに率先垂範して、自分の導きを求めてやまないのは水である。っていうゆうめいな にありますけど。自分が動いて他人を動かすのが水だとかね。それから、障害にであつたらますますいく場所は水だとか。逆境にぶつかったら一気に、これはしめたと思ってね。凄い逆境にぶつかると言うことは、その人が認められているということですからね。必ず突破できますから。大きな逆境にぶつかると言うことは、それだけ能力があるということですから。とうとうこれだけのところに来たかと。よしやってやろうということで、やったお手本が坂本龍馬なんですよ。彼は逆境を、不可能を全部可能にしてる。今できない、でも必要だったら後で時間をかけてもやる。このままではできない、じゃあやり方を変える...脱藩するとかね。1人ではできない。たくさんを味方にするとかね。みんなできないということをして、できることに変えてしまう。だから、その気になって勉強しようと思ったらね、みなさんの為になる、問題にぶつかったら解消できるようなね、出会いがどんどん起きるんですよ、かならず。さっきのお母さんがおっしゃったように。

だから人生大いに謳歌をしないと。夢をどんどん実現する、そういう人は当たり前。それを当たり前にしていく。お子さんがどんな人生を歩くかというのを、楽しみながらお父さん・お母さん自身も自分の夢として実現していく。大体 60 位が人生折り返し点ですから。

みれば実習生みたいなものですから、60 位が本番と私は思っています。経験知識は本当に 60 歳からです。高齢化社会っていうのは知的レベルが高い社会ですから。間を

が凄く大事になります。家庭ゼミナールの中では。だって経験と知識をみんな伏せてるでしょう。これは最高のエネルギーロスです。一生懸命有効なエネルギーを使って、経験して知識を学んで、どうするんですかこれ。使わないことには。経験した話なんかどんどん子供達に伝えないと。だから高齢化・少子化っていうのは、質を一気に高めるそういう必然的に時代が生み出している現象なんです、私に言わせれば。それを否定的に、子供が少なくなったら困るとか、聞き取れません

そういう広いシェアから、現象を捉えていくという。できるのが人間ですから。そういうレベルの高い方に一気に高めていく。それが時代の趨勢ですからね。富山というのは、それこそ『親学』なんですよ。高橋先生に来ていただいてやるって言うのは。役割ができる場所ですから。白羽の矢が立ったところですから、素直に答えたら富山県はさすがだということで、僕には未来が見えている。みなさんがもし、やればね。これだけの人が一気に

にその気になるというのは相当なことができますよ。何かみなさん、また集まったらどうですか。

(参加者 E) 私思ったんですけど。子供のくだらない馬鹿話を、真剣じゃなくてもとにかく聞く。そこからどンドン話していけばいろんな問題とか困っていることとか、本当に子供が必要なことをしゃべっている中から出てくると思うんです。逆にこっちが話をしようねと言うと、嫌がって逃げていくんです。でも帰ってきたときに、今日はこんな事があたって、小学生低学年のお子さんまでは当たり前だったことが、先に聞いてあげれば中学に行っても、そのまま、こんなのがあったあんなのがあったっていっぱい話してくれるんですよ。その時に子供に自信を持たせる言葉も話してあげられる瞬間って言うか、ちょっとした間がたくさんあるんです。とにかく、疲れてるかもしれないし嫌かもしれないけど、帰ってきたときに「ふーん」でも「そうだね、よかったね」とか励ましてあげる言葉を、その時にたくさんかけてあげられる時なんです。だから、私はあまり疲れてたら「お母さん、機嫌悪いからちょっとごめん」とか言って、しゃべっているときに機嫌を悪くするんじゃないくて、お母さんは今日疲れてるから、後にしてねって言うても、必ず聞いてあげることしたら。いっぱい言葉を求めていますよ、子供は。

(百瀬) はい、ありがとうございます。朝ね、みなさん何時に起きるでしょうか。朝5時台に起きる人。ああ、いっぱいいますね。お父さんがた。早起きは三文の得といただきますけど、朝はプラス思考ですね。さまざまな一年がある。みなさん寿命が長いですから。朝起きる人はね。それから短時間でも、短い睡眠時間でも持つという人たちもいますね。Fさん、いらっしゃいますか？何かご意見でも、感想でもおっしゃっていただけると。「きょうは何か、為になりました」でもいいですよ。

(参加者 F) 音声が小さくて聞き取れません

(百瀬) 今日これは、きっかけですからこれをものにしていくっていう事だと思って。せっかく集まったからなんかね。また集まる機会があったらと思うんですけど。林さんいらっしゃいますか。どうぞ。何でもいいですよ、早起きしているお父さん。

(参加者 G) 音声が小さくて聞き取れません

私小さい頃、おじいちゃん何かしたときも、近寄れなくて怖かった。

音声が小さくて聞き取れません

一番最初、朝起きてからの挨拶

子供達に対して「おはよう」という最初の言葉が

大切だなと思って。

音声が小さくて聞き取れません

19歳になった長女が、いじめということからはじめて、

聞き取れません

(百瀬) それがきっかけではじめたんですか。

(参加者G) 音声小さくて聞き取れません

(百瀬) クドクが現実化したわけなんですね。

(参加者G) 本じゃなくて仏教に頼ったわけなんです。

(百瀬) いや、お父さんの背中を見て育ちますから。その畏敬の念というか、大きな力というものに感心を持つと言うことはこれからの時代、凄く大切なんです。それは、いろんな意味でね。

(参加者G) 音声小さくて聞き取れません

(百瀬) 貴重なお話ありがとうございました。

(参加者H) はい。私は今のみなさんの思いというか、真剣な話に比べると私の上司とか先輩から、こういう会があるよということで紹介いただいて、これに参加させていただいたんですけど。多少家庭でも息子の関係とか 悩みがあって たんですけど。やっぱり今回のこの話を聞いていると、自分がやってきたことがだいぶんずれているなど。否定的、どちらかというとな否定的。本なんか読んで、たまには肯定的になるんですけど、また基本的に否定的に戻ったりしてですね。そういったことももっと真剣に改めて。親を見て子供は育っているのがやっぱり実感はしているんですけど、もっと真剣に この会に参加したことを最大に生かして

。私目標というのは、最終的には元気な父ということで になりたいというのが目標なんですけども、そういったことを含めて 肯定的な人生を送りたい。

(百瀬) ありがとうございました。こういう考え方の をね、居間に書いて貼ってあるお父さんとかね。結構やってらっしゃるんですよ。「家庭ゼミナールは宝」って色紙に書いて額に入れておいて。子供達に主体性を持たせてやるなんていうのはね。そういうなんか、1つ絆があってやることあるかないか。絶対必要なんですよ、絆とかがある毎週1回でもいいから。

非常にコミュニケーションがあると、子供はお父さんに言いたいことをいえるんです。伝えあうことがやりやすい。漠然と何となくいるのが一番だめなんです。両方が必要ですから。Iさん。もう時間。もうひとかた。Iさんどうぞ。

(参加者I) 私には小学校4年と2年の。4年生の兄が  
去年からちょっと、不登校。これといった  
原因がわからない。親学という話を聞いて、これは子供だけではなくて、  
親も勉強しなくてはならないんだと思いました。私も変わ  
らないといけないなと。  
こういう事がないと、こういった記事も目に入らないし先生がおっしゃったように出会い  
もなかった  
まだまだ未熟ですけども、見逃さないように。

(百瀬) お子さんこれから黄金期ですからね。これからが大事。「君たちは偉大だ」い  
いからね、もう共通の常識にしてしまう。とりあえまずお母さんと一緒に読んでもいいし。  
最初親が与えるでしょう、見向きもしない子もいるんです。お姉さん買って来たけど読ま  
ないとかね。手紙が来るんです生徒からそういう。そのうちに何かの機会に読んで、「しま  
った」ってみんな書いてくるんですよ。なぜもっと、あのときに読まなかったと、みんな  
後悔ばかりしているんです。何かのきっかけでちゃんと読むんです。でも未までもなく、  
一緒に毎日声に出して読む。そのことがどれほどやるか、実験のためにもということですね、  
やってみたらいい。お子さんがだめならお母さんがやったらいい。必ず真似しますから。  
そして一冊ものにしたら、あとにも手がかりませんよ。そのくらい。旬の時期にちゃ  
んとやるべき事をやっておく。一番確実で早くて。黄金期ですから、楽しみですから。よ  
ろしく言っておいてくださいね。

(参加者I) はい、ありがとうございます。

(百瀬) 将来大丈夫だと言ってやってください。お母さん・お父さん達のお子さん達  
もね、今日ここで出会ったってことは、プラス思考だから出会ったんです。今日は来たん  
ですから。この姿勢を常に、大いに評価してですね。やったことは正當に認めることが大  
事なんです。子供でも自分でも。そしてそれを、次に生かしていく。欲張らなくてもいい、  
一冊でいいからああいう柱になるものをまず、マスターする。そしてそれをやってみて本  
物にしていくという。本は本なりの役割があるんですからね。誰が書いたかなんてどうで  
もいいんで、社会に出たからには社会に共有の財産です。それをいかに生かすかと言うこ  
とです。本読まないと言うのは致命的です。本なんていうのは宝物です。それをちゃんと、  
幸せな人生を生きたかったら、生きたいだけの価値があるのに使わないからうまくいかな

いんでしょ。価値のあるものをどんどん生かしていく。お父さん・お母さんが率先してや  
っていくということが一番大事。確かなことだと思います。明日の朝まで続けたいですけ  
ど、そうはいってられないので残念ですけどね。

今日は本当にみなさん、出会えて本当に貴重な時間を生かしていただきありがとうございました。  
どうぞこれからも、素晴らしいご家庭を築いて、素晴らしい人生を歩いていた  
だいて、お子さん達にもよろしくお伝え下さい。ありがとうございました。

本が必要な方は、私のほうに言ってくだされば、ちゃんと送り届けますので。必要があれば。

(司会者) それでは先生、長時間にわたってありがとうございました。それでは先生  
にもう一度、暖かい拍手を送りたいと思います。ありがとうございました。